

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の普及について

1 県政世論調査の概要

1 8歳以上の県民の中から、無作為に抽出した5,000人を選んで実施

(1) 調査設計

- 調査対象 埼玉県在住の満18歳以上の方
- 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- 標本数 5,000人
- 調査方法 郵送配布・郵送回収（インターネット回収併用）
- 調査期間 令和7年7月4日～25日まで

(2) 回収結果

- 回収率 48.9%（回収数2,446人/標本数5,000人）

※ ＡＣＰに関する調査は、日常生活に関する問13で実施

令和7年度ACPに関する県政世論調査結果

2 ACPの認知度

- 「知っている」は**17.7%**
- 令和5年度調査と比較して**7.1ポイント増加**
- 令和3年度調査と比較して**1.0ポイント増加**
- 年代別の数値は次のとおり。
20歳代：16.1% 30歳代：16.0% 40歳代：13.9%
50歳代：15.9% 60歳代：19.2% 70歳以上：21.8%

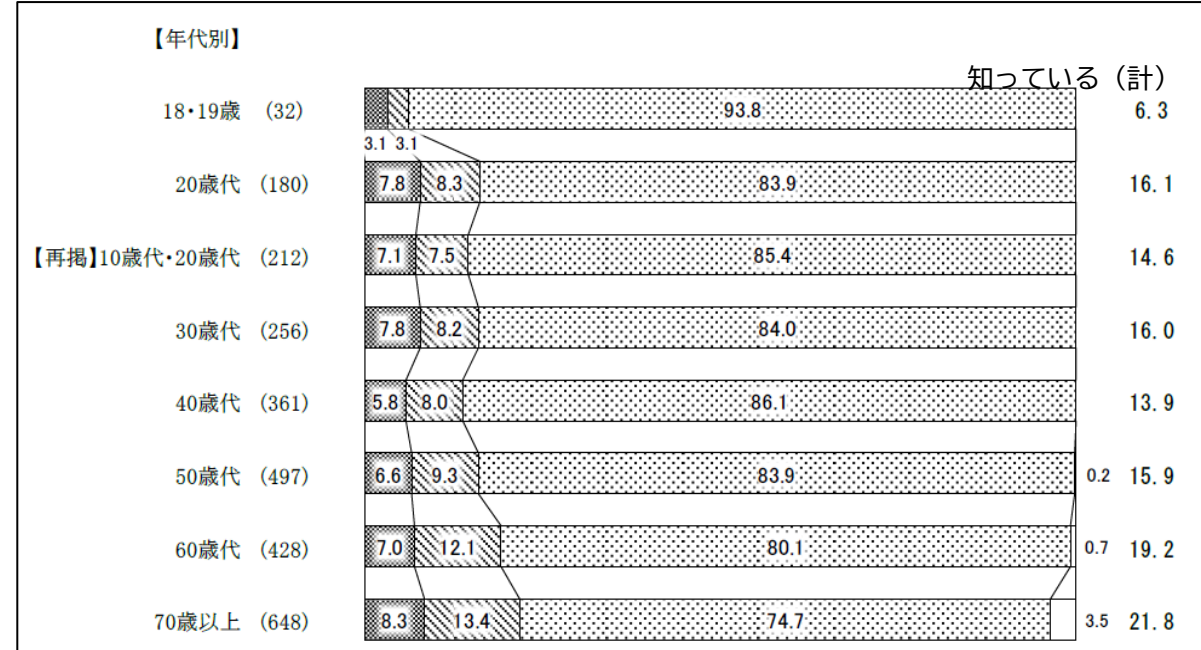
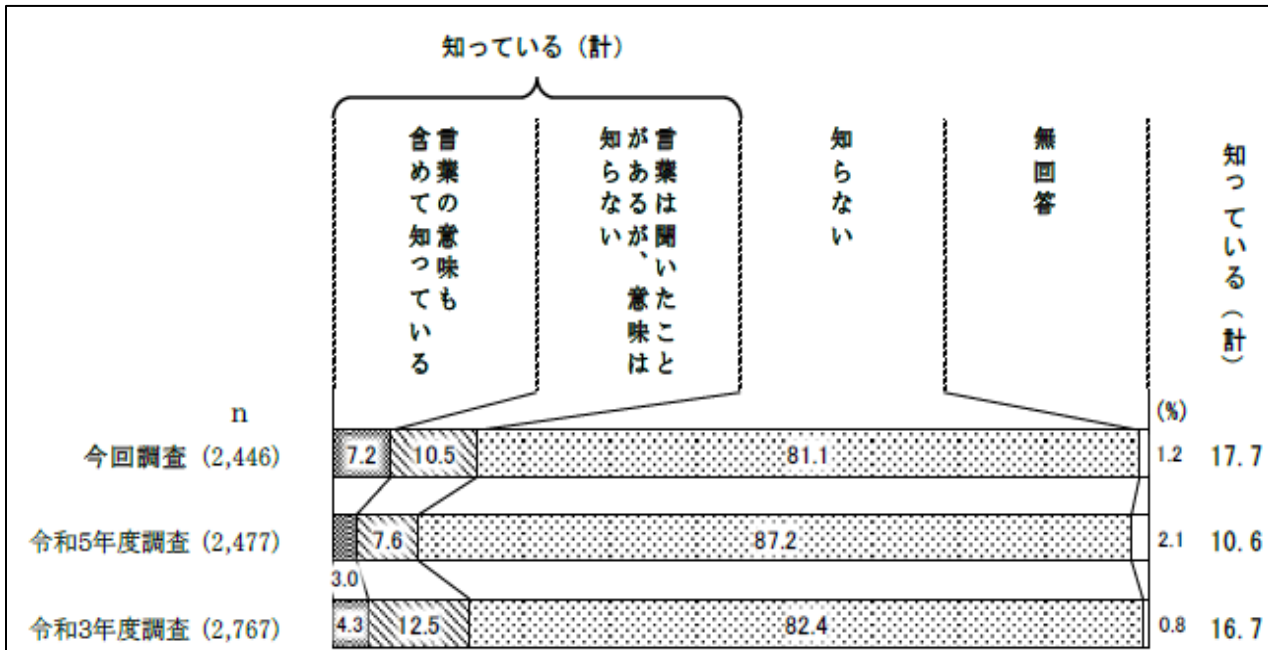
【地域別】

①上位

・ 秩父地域	25.0%
・ 川越比企地域	20.6%
・ 東部地域	19.6%

②下位

・ 利根地域	14.3%
・ 北部地域	14.5%
・ 西部地域	15.5%



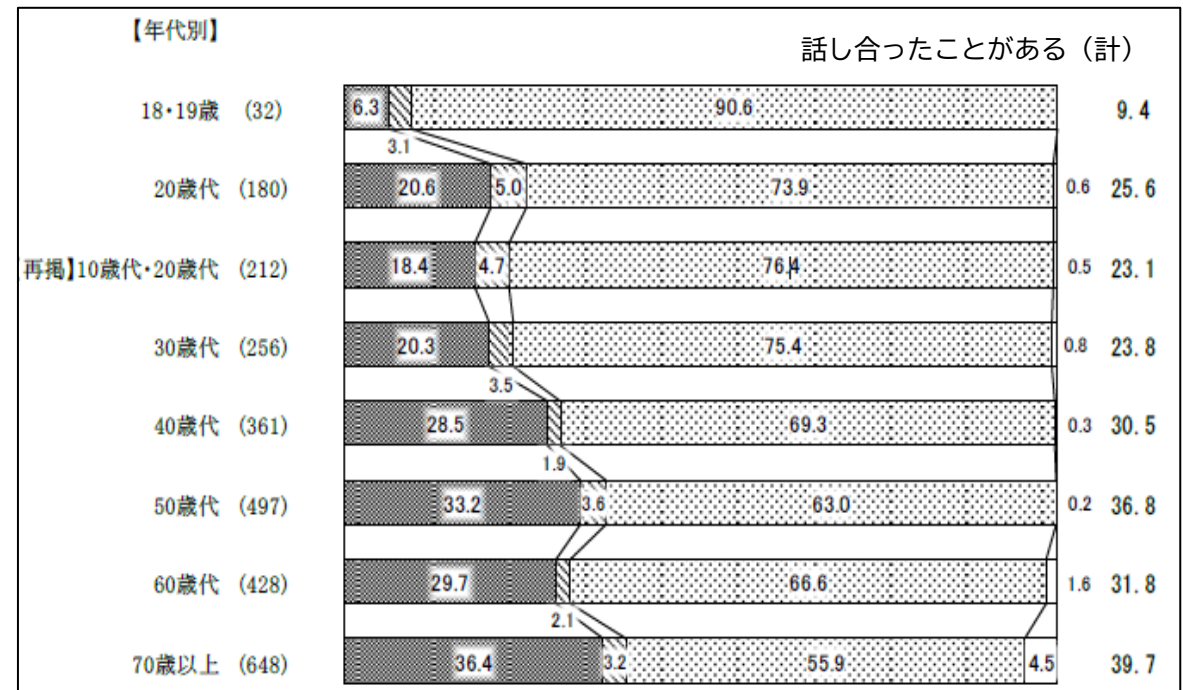
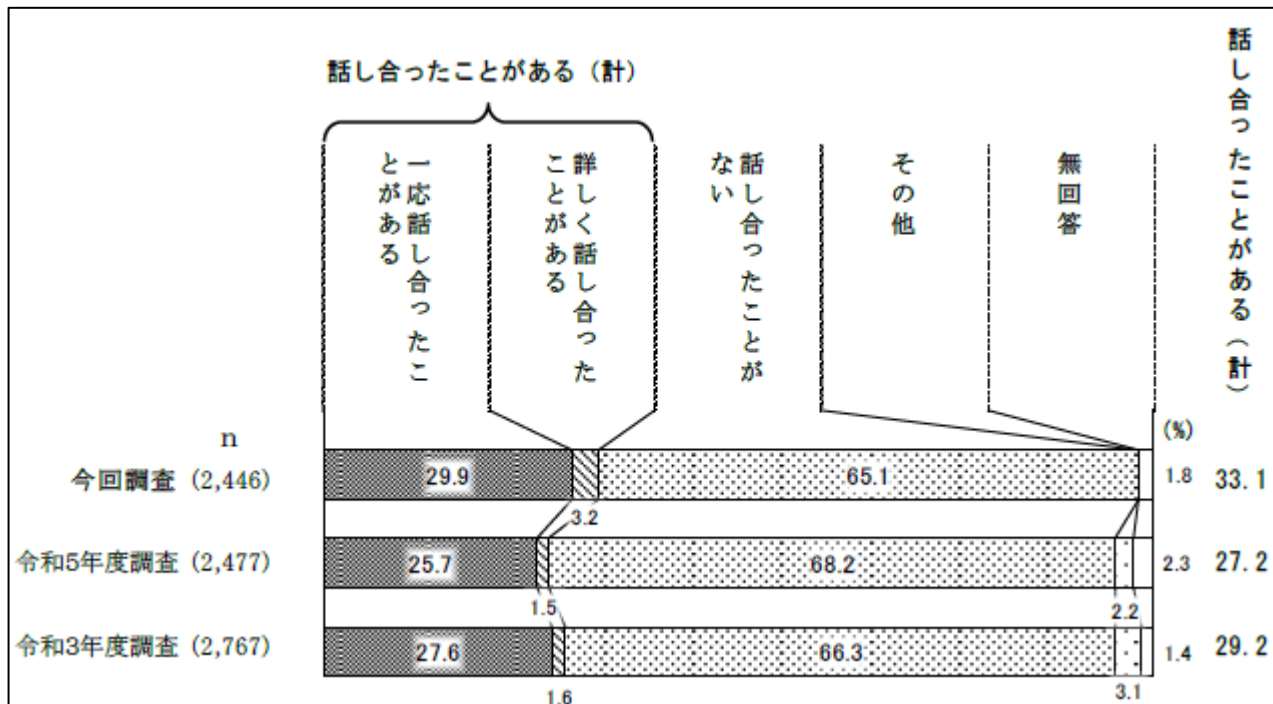
令和7年度ACPに関する県政世論調査結果

3 人生の最終段階において望む医療やケアについて話し合った経験

- 「話し合ったことがある」は**33.1%**
 - 令和5年度調査と比較して**5.9ポイント増加**
 - 令和3年度調査と比較して**3.9ポイント増加**
 - 年代別の数値は次のとおり
- 20歳代：25.6% 30歳代：23.8% 40歳代：30.5%
 50歳代：36.8% 60歳代：31.8% 70歳以上：39.7%

【話し合ったことがない理由】

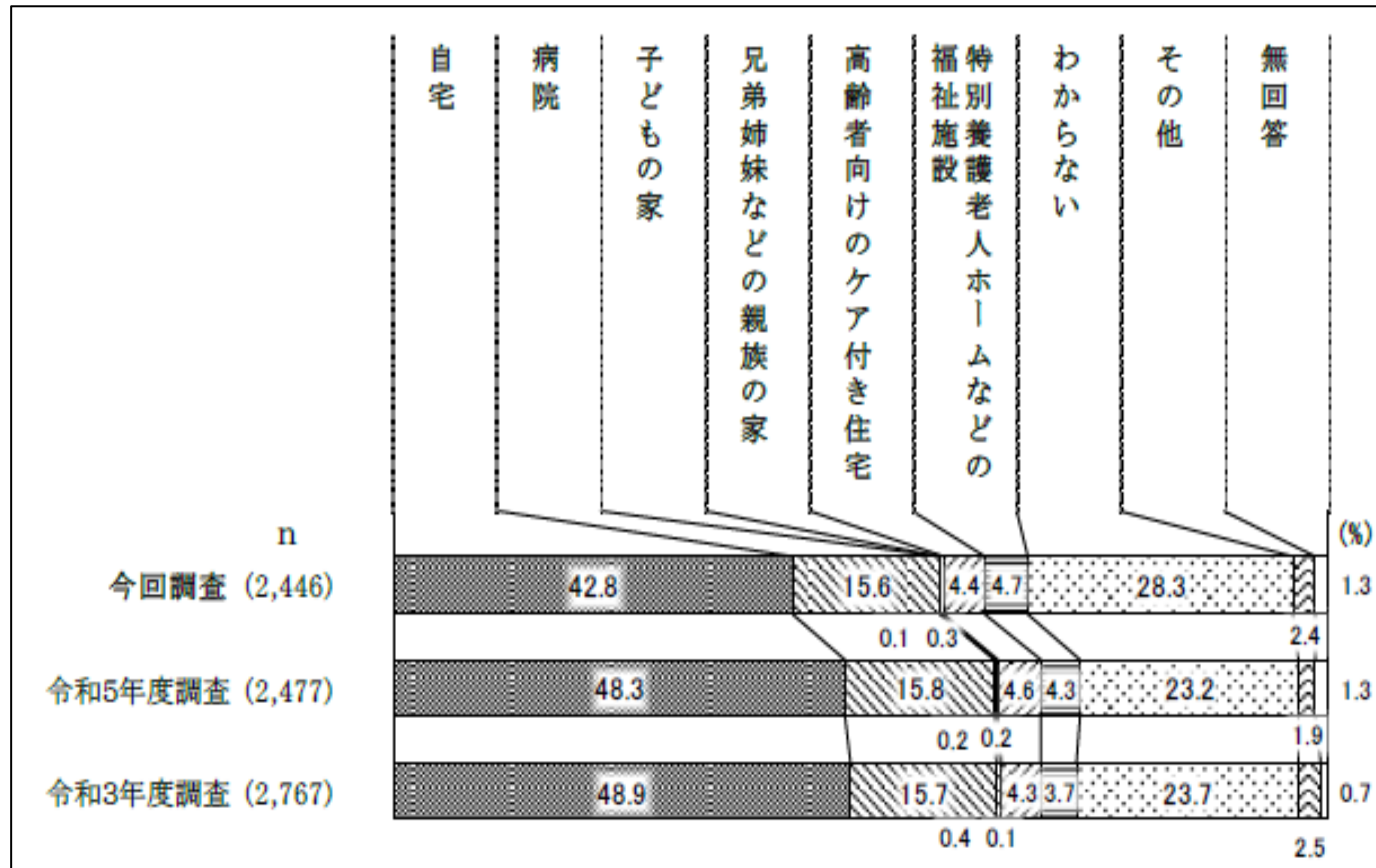
- ①話し合うきっかけがない 60.8%
- ②何を話し合っていていいかわからない 14.4%
- ③話し合う必要性を感じていない 13.6%



令和7年度ACPに関する県政世論調査結果

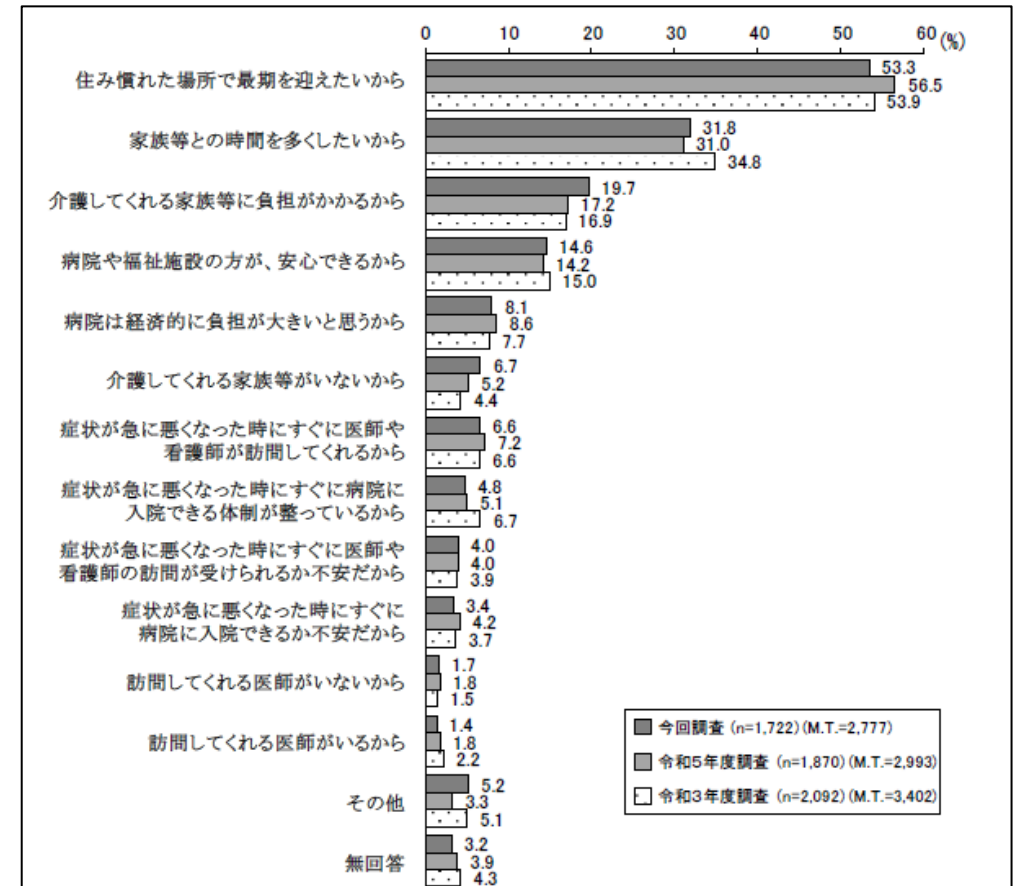
4 人生の最期を迎えたい場所

- 「自宅」は**42.8%**であり、令和5年度調査及び令和3年度調査と比較して若干減少しているが、依然として最も高い。



【各選択肢を選択した理由】

- ①住み慣れた場所で最期を迎えたいから
⇒**53.3%** (3.2ポイント減少)
- ②家族等との時間を多くしたいから
⇒**31.8%** (0.8ポイント増加)



▶ これらの調査結果を踏まえ、現状や今後の取組を整理

5 住民への普及

(1)現状

- ACPの認知度は前回の調査を上回っており、取組の成果が出てきている。
- 人生の最終段階において受たい医療・ケアについて話し合った経験についても前回調査を上回った。
- 話し合ったことがない理由は、「話し合うきっかけがない」や「何を話し合っているかわからない」が上位。

(2)今後の取組

- これまで、県医師会協力の下、ACPの内容を収録したDVDや「私の意思表示ノート」の作成、ACP普及啓発講師人材バンク登録事業などを実施。
- 患者本人の意思決定を支援するためには、患者の子ども世代を中心に家族の理解が欠かせない。民間企業(生命保険会社等)と連携し、**現役世代に向けた取組を強化**。
- 来年度に行われる第8次地域保健医療計画の中間見直しにおいて、**ACPの認知度に関する指標**を設定すべきか検討していく。



【論点】

- ・ 住民向けのA C P普及に向けた今後の取組について、工夫・改善を図るなど充実する取組はないか。